

## I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 海洋スポーツの普及を目的に、関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. セーリング競技等における競技力向上に関する合宿を開催した。
4. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第29号を発刊した。

## II. 事業報告

### 1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から社会情勢を考慮しつつ、適宜計画を遂行した。

#### （1）指導者育成

自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格取得については、単独事項ではなく、実技授業の単位互換を加味して教務事項として検討することとなった（主担当 中村）。

#### （2）小型船舶免許取得講習会の開催（主担当 坂口）

在学生5名が受講し、3名が2級を、2名が1級を取得した。

#### （3）近隣小学校の海洋スポーツ体験（主担当 中村）

令和4年度より鹿屋市立野里小学校と連携し、大学生指導実習授業との合同で実施する体制となった。令和5年度は全4回（1回目：事前学習「安全」、2～4回目：ヨット、カヌー、SUP体験）を実施した。

#### （4）海洋スポーツの教育効果に関する調査を実施する（主担当 笹子・中村）

国立大隅青少年自然の家「海からのメッセージ」事業における効果検証について、過去7年間の同事業で実施された「生きる力」データを収集して傾向をまとめ、令和5年度論文掲載された。また同事業において、令和5年度はプログラム遂行中の水分摂取状況の調査を行い、報告書を作成した（主担当 笹子）。

### 2. 研究プロジェクト

#### （1）生涯スポーツとしてのSUP（スタンドアップパドルボード）の効果に関する研究

（主担当 中村・榮樂）

本年度は研究遂行のための機材準備にとどまり、データ収取には至らなかった。

#### （2）カヌースプリント競技・ボート競技の競技力向上に関するパフォーマンス研究

（主担当 中村）

選手個人が取り組むパフォーマンス研究を支援し、全日本大学選手権や全日本大学選手権で上位入賞を果たした。

#### （3）セーリング競技における基礎研究の推進（主担当 榮樂）

パフォーマンス研究に取り組み、ヨット1件、ウィンドサーフィン1件を学術誌に投稿した。

### 3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

- (1) 学長杯オープンヨットレース（主担当 榮樂・笹子・坂口）

令和5年8月27日に、第31回大会を実施した。

- (2) カノヤカップヨットレース大会協力（主担当 榮樂・笹子・坂口）

令和5年8月26日に開催され、大会運営に協力した。

- (3) 公開講座（主担当 中村・榮樂・笹子・坂口）

①公開講座A：楽しいマリンスポーツ

令和5年4月9日（日）～5月21日（日）の期間で半日講座を計5回実施した。

②公開講座B：楽しいスキndaイビング（初級者編）

令和5年5月17日（水）～6月28日（日）の期間で、プール7回（水曜日10時～11時30分）の講座を実施した。7月2日は海での活動を予定（9時～16時）したが、予備日（7月9日）を含め荒天となったため、海でのスキndaイビングは実施しなかった。

③公開講座C：少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ

令和5年7月25日（火）～7月27日（木）の2泊3日で、小学3年生から6年生を対象としたマリンスポーツ体験を実施した。宿泊は国立大隅青少年自然の家であった。

- (4) マリンフェスタ in かのやへの協力（主担当 中村・坂口・榮樂・笹子）

令和5年7月16日（日）にマリンフェスタ in かのやが開催され、マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担った。また、ヨット部・ウィンドサーフィン部・カヌー部・漕艇部の学生と、関連ゼミ生が運営と安全管理に尽力した。

- (5) 国立大隅青少年自然の家との事業協力（主担当 中村・笹子・榮樂・坂口）

継続事業である「海からのメッセージ」事業における安全管理および海洋スポーツ体験に協力した。荒天により当初予定から変更され、8月16日（水）はカヌー操船練習の指導補助、17日（木）午前はカヌーツーリングへの救助艇伴走、午後からは海洋センターでのSUP体験を支援した。

また、10月21日（土）において本年度初開催となった「SEA TO SUMMIT for Children in 大隅の」海イベントの安全管理、海洋スポーツ体験に協力した。

### 4. その他

- (1) 協力者会議の開催（主担当 中村・榮樂）

テーマを「海洋スポーツ実践者・指導者が持つべき海洋リテラシー」とし、令和5年12月5日に開催した。

- (2) 卒業生の海洋スポーツ活動状況調査（主担当 笹子・榮樂・中村）

令和5年度中に卒業生に対し、卒業後の活動状況に関する調査を依頼し、回収を行った。

- (3) 競技スポーツにおける試合・合宿への協力

競技力向上に関する支援事業として、ヨット競技4件、ウィンドサーフィン競技1件の練習会や講習会を開催、支援した。

- (4) 外部団体海洋スポーツ体験の受け入れ

学校、福祉団体等、外部団体の教育的効果を目的とした海洋スポーツ体験等を全4件受け入れ、海洋スポーツの体験指導や安全管理のサポートを行った。

### Ⅲ. 決算報告（附属施設経費（海洋スポーツセンター経費）2,472 千円）

#### 1. 教育プロジェクト 0千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0千円	—
物件費	0千円	—
その他	0千円	—

#### 2. 社会連携・社会貢献プロジェクト 75千円

区分	金額	算出内訳
人件費	46千円	学長杯ヨットレース学生アルバイト
物件費	29千円	消耗品費 等
その他	0千円	

#### 3. その他 2,397千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0千円	—
物件費	2,342千円	燃料費、保守・修繕費、修繕関連消耗品、 印刷製本費、その他管理運営費等
その他	55千円	協力者旅費

### Ⅳ. その他

#### 1. 発刊物

海洋スポーツ研究第29号を発刊した。

#### 2. 開催会議状況

協力者会議を令和5年12月5日に開催した（Ⅱ. 事業報告4その他（1）記載）。

#### 3. 広報活動

海洋スポーツセンターのホームページの原案を作成した。

#### 4. センター利用促進策の成果

令和5年度の利用者総数（のべ人数）は、3,519名で、昨年度と比較し1,590名の利用者減であった。

#### 5. その他

特になし